

# 町史のひとこま

(第十三回)

## 旅石の廃寺

### 海蔵寺をたずねて(下)

#### 旅石村の山伏

旅石のお寺、海蔵寺のことをたずねながら、私にはもうひとつ気になることがあります。

それは、江戸時代の終わり頃、旅石に山伏がいたことです。太宰府天満宮の協力で出版された『宝満山信仰史の研究』という本に、そう書かれています。須恵で山伏と言えば佐谷がすぐ思いうかびますが、その頃は須恵の宝満宮にも、旅石にも山伏がいて、若杉山や宝満山で修行していたようです。

先にあげた本によると

①文政元年(一八一八)

法玄坊宗貞

②文政八年(一八二五)

円智院宗栄

③弘化二年(一八四五)

法玄坊宗海

と、年代は少し違いますが、三人の名があげられています。

#### 法玄坊のこと

この法玄坊という山伏は、旅石のどこに住んでいたのでしょうか。私は、これも「お観音さま」と言われている、元海蔵寺のあとに住んでいたのではな

#### 二人の法玄坊宗海

いかと想像しました。そこで、尋光寺住職の財津晴海さんに、お寺には法玄坊か山伏について何か残っていますかかと想像しました。

そこで、尋光寺住職の財津晴海さんに、お寺には法玄坊か山伏について何か残っていますかかと想像しました。



法玄坊宗貞の墓碑(旅石)

か、とたずねてみました。そして思いがけないことを聞きま

た。財津さんによると、旅石区長をされたことのある藤利雄さんから、旅石の墓地にはお坊さんのお墓があります、と聞いたことがある。近く案内してもらいますから——とのことでした。

後日、私は財津さんとお墓を調べに行くことになりました。草が繁っているので鎌を用意し、供養に線香も持参しました。お墓を見て驚いたのは、立派な碑文のあることと、それが高僧の筆になることでした。

#### 法玄坊宗貞と観音堂

法玄坊初代の宗海の子が、宗貞です。宗貞のお墓は、書が崇福寺月海和尚のもの。月海は後に京都大徳寺の住職になる高僧です。

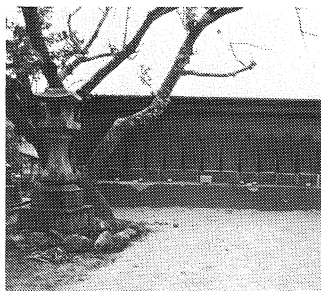
これには、宗貞の子大道による碑文があり、旅石の様子がよくわかります。なお、この大道は東油山正覚寺の第八世住職で、この人も立派なお坊さんとして知られる人です。

法玄坊の先祖は筑後の人で、元禄(一六八八〜一七〇四)の頃、龍門山(宝満山の別名)に登って山伏になりました。次が新坊で、これは宝満山の坊として幕末まで続いているようです。新坊の次子が別に寺をおこし、数代を経て宗海が法玄坊を名のりました。

宗海が旅石に移り、圓聞とい

う人物も来て、廃寺を興したという事です。宗海の子で、圓聞の娘婿にあたる宗貞が、兩人の志を継ぐことになりました。

宗貞は、文政年間(一八一八〜三〇)山伏の位で法橋になり、田中に「再び観音堂ヲ営ム」とありますから、旅石の「お観音さま」を再興したのが宗貞だとわかります。



「尋光寺境内の十三仏」

文政十一年(一八二八)にはお寺も建てますが、その年の秋の大風で寺も堂も倒壊し、翌年また建て直しという苦労を重ねました。

なお、この年は八月九日と二十四日、前代未聞の大風に高潮・火災が重なり、福岡藩領内で倒家三万戸と記録がありますが、須恵も被災したものでしょう。(町誌編集委員会事務局・石瀧)